

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

| | |
|--|--------------------|
| ふりがな 氏名 | よねおか だいすけ 米岡 大輔 |
| (研究テーマ名) ハプスブルク帝国治下ボスニアにおけるシャリーア法官学校 | |
| (研究活動実績) <p>本年度は、上記の研究テーマについてまず、オーストリア国立図書館に所蔵されている「サラエヴォのシャリーア法官学校に関する 30 年間の活動報告」(<i>Tridesetgodišnji Izveštaj šeriatske sudačke škole u Sarajevu, Sarajevo, 1917.</i>) を分析することから始めた。この史料は、ハプスブルク帝国統治期間中のシャリーア法官学校の運営・活動全般について記されている唯一の刊行史料である。そこでは、同学校における学則や授業科目、30 年間の学生数・教員数の変化、卒業生の就職状況等がまとめられていた。こうした情報を踏まえつつ、次に、ボスニアの国立文書館でこれまで収集してきた未刊行史料についても分析を進めた。その結果まず、ハプスブルク帝国がこの学校の設置・運営に取り組んだ背景として、イスラーム教徒の中から帝国統治の担い手となるエリート層を養成しようとする目的があったことが明らかとされた。さらに、当時のボスニアのイスラーム教徒にとっては、この学校が単なる帝国統治のエリート養成機関としてのみならず、西洋的・近代的な知識を育む高等教育機関としても見なされていたことも明らかとなった。なお本研究テーマに関する史料調査をさらに進行すべく、2014 年 2 月に約 2 週間ボスニアの国立文書館を訪問した。</p> <p>上記の研究成果の一部としては、「ハプスブルク帝国によるボスニア占領とイスラームの対応」(『史潮』新 74 号、2013 年 12 月、1-14 頁) という論文を発表した。今後も引き続き、本研究テーマに関する口頭発表及び投稿論文の執筆に積極的に取り組んでいきたい。</p> | |